

血管強化・止血剤

**S・アドクノン錠30**

(アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物錠)

**S・ADCHNON® Tablets 30**貯 法：室温保存  
使用期限：外箱等に表示

承認番号	14600AMZ02370000
薬価収載	1974年3月
販売開始	1974年4月
再評価結果	1979年2月

## 【組成・性状】

S・アドクノン錠30	
成分・含量	アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物 30mg
添加物	乳糖水和物、バレイショデンブ、結晶セルロース、ポビドン、ステアリン酸マグネシウム、マクロゴール6000、ポリビニルアセタールジエチルアミノアセテート、ソルビタン脂肪酸エステル、酸化チタン、タルク、黄色5号、カルナウパロウ
性状	だいたい赤色・フィルムコーティング錠
外形	表
	裏
大きさ	直径：約8.2mm 厚さ：約3.9mm
質量	約190mg
識別コード	NF 215

## 【効能・効果】

- 毛細血管抵抗性の減弱及び透過性の亢進によると考えられる出血傾向(例えば紫斑病など)
- 毛細血管抵抗性の減弱による皮膚あるいは粘膜及び内臓からの出血、眼底出血・腎出血・子宮出血
- 毛細血管抵抗性の減弱による手術中・術後の異常出血

## 【用法・用量】

アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物として、通常、成人1日30～90mgを3回に分割経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 【使用上の注意】

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 副作用  
総症例数2,158例中123例(5.70%)222件の副作用が報告されている。主な副作用は食欲不振42件(1.95%)、ALT(GPT)上昇34件(1.58%)、AST(GOT)上昇31件(1.44%)、嘔気29件(1.34%)、下痢29件(1.34%)等であった(1987年9月までの集計)。

	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症 <sup>2)</sup>	発疹	—
消化器	食欲不振、嘔気、下痢、嘔吐	腹痛等
肝臓	肝機能異常(ALT(GPT)上昇、AST(GOT)上昇等)	—
腎臓	—	BUN上昇
その他	全身倦怠感	—

注)このような場合には、投与を中止すること。

- 高齢者への投与  
一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与  
妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[安全性は確立していない。]

## 5. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない。]

## 6. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の代謝物により、尿ウロビリノーゲン試験が陽性になることがある。

## 7. 適用上の注意

薬剤交付時：

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

## 8. その他の注意

着色尿があらわれることがある。[アドレノクロムモノアミノグアニジン及びその代謝物の影響が考えられる。]

## 【薬物動態】

1. 血中濃度<sup>1)</sup>

健康成人男子に対してアドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物として150mgを経口投与した場合、投与後1～2時間で最高血中濃度に達し、その後減少し、7時間後には最高血中濃度の1/3以下に減少した。

2. 排泄<sup>2)</sup>

健康成人男子にアドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物粉末を、2mg/kg、5mg/kg、10mg/kg経口投与(各1名)すると、未変化物の尿中排泄量は投与後2～3時間に最大となった。

(注)薬物動態試験における投与量は、本剤の承認された用量と異なる。[「用法・用量」の項参照]

## 【臨床成績】

二重盲検比較試験において、毛細血管抵抗性減弱を有する患者に対して、本剤を1日3回、4週間投与したところ、毛細血管抵抗値が有意に改善した<sup>3)</sup>。

## 【薬効薬理】

1. 皮膚毛細血管抵抗増強作用(皮下投与)<sup>4)</sup>

モルモットにおいて、アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物を皮下投与し、陰圧負荷に対する毛細血管抵抗をvon Borbély氏法により測定したところ、毛細血管抵抗値の増強を認めた。

2. 陰圧下肺出血の抑制作用(腹腔内投与)<sup>4)</sup>

マウスにおいて、アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物を腹腔内投与したところ、急激な減圧により生じる肺出血を抑制した。

3. 毛細血管透過性抑制作用(筋肉内及び皮下投与)<sup>4,5)</sup>

ウサギにおいて、アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物を筋肉内投与したところ、ヒスタミン及びヒアルロンターゼによる毛細血管からの色素漏出を抑制した。また、モルモットにおいて、アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物の皮下投与はブラジキニンによる毛細血管からの色素漏出を抑制した。

4. 止血作用(腹腔内及び筋肉内投与)<sup>4,5)</sup>

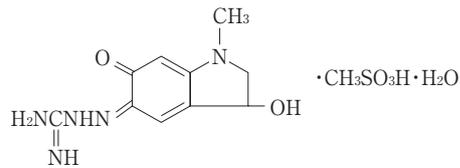
マウスにおいて、アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物の腹腔内投与は、尾端切断による小動脈からの出血時間(出血が完全に止血するまでの時間)を短縮した。また、ウサギにおいて、アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物の筋肉内投与は耳朶血管穿刺による出血時間を短縮した。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アドレノクロムモノアミノグアニジンメシル酸塩水和物  
(Adrenochromemonoaminoguanidine Mesilate Hydrate)

化学名：2-(1, 2, 3, 6-tetrahydro-3-hydroxy-1-methyl-6-oxo-5H-indol-5-ylidene)-hydrazinecarboximidamide monomethanesulfonate monohydrate

構造式：



分子式： $\text{C}_{11}\text{H}_{17}\text{N}_5\text{O}_5\text{S}\cdot\text{H}_2\text{O}$

分子量：349.36

性状：赤色～帯黄赤色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

水又はギ酸に溶けやすく、メタノール、酢酸(100)又はエタノール(95)に溶けにくく、無水酢酸、酢酸エチル、ジエチルエーテル又はクロロホルムにほとんど溶けない。

融点：190～199℃(分解)

### 【包装】

100錠、1000錠(PTP)

### 【主要文献】

- 1) アルフレッサ ファーマ(株)：薬物動態試験に関する資料(社内資料)
- 2) 菊本 聡 他：薬物療法, 4, 879(1971)
- 3) 馬場賢吾 他：薬物療法, 8, 2311(1975)
- 4) 渋谷 健 他：東京医科大学雑誌, 33, 143(1975)
- 5) 南 正夫：週刊医学通信, 16, 15(1961)

### 【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

アルフレッサ ファーマ株式会社 学術情報部  
〒540-8575 大阪市中央区石町二丁目2番9号  
TEL 06-6941-0306 FAX 06-6943-8212